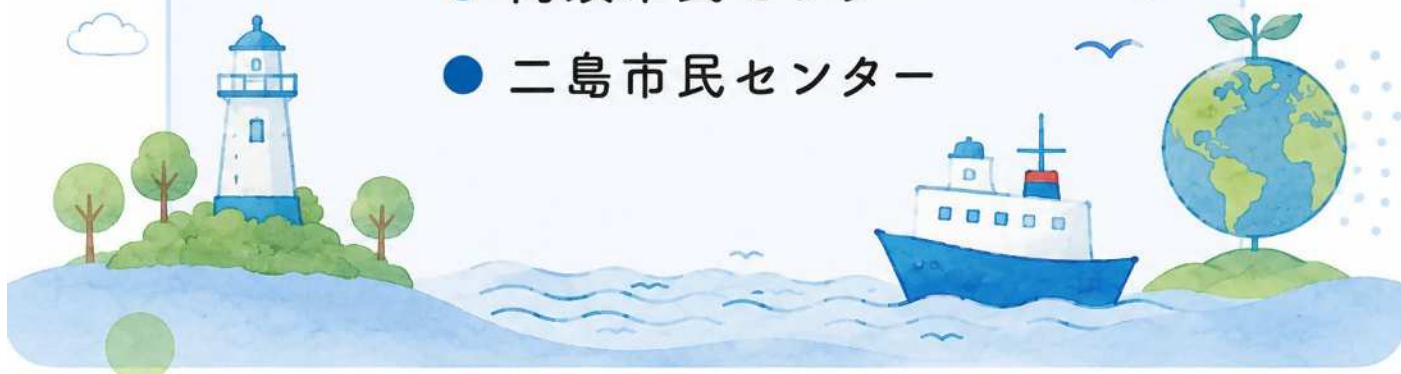




若松区

こどもまんなか、多文化でつながる

- 高須市民センター
- 二島市民センター



市民センターにおける生涯学習事業

区	若松区	センター名	高須市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

“こどもまんなか” から多世代交流へ

事業・活動の背景とねらい・目的

近年、地域では人と人の接点が減少し、世代や立場を超えた関係性が希薄化している。特に子どもは安心して過ごせる居場所が限られ、高齢者も地域との関わりが偏ることで、日常的に顔を合わせる関係が生まれにくい状況にある。その結果、子どもの孤立や自己肯定感の低下、高齢者の生きがいの減少などが課題となっている。

高須市民センターでは、こうした地域課題に対し、「こどもまんなか」の視点から、市民センターを拠点とした居場所づくりと多世代交流を進めてきた。

本事業は子どもを中心に据えながら地域住民が自然につながることを目的としている。

取組内容

- ① 子どもたちの居場所＆学びの場である「わいわい市民センター」を実施。子どもたちに向けて市民センターが開館している月曜日～土曜日に市民センターの一室を開放し、宿題や読書、カードゲーム、趣味などを行える場所として自由に使えるようになっている。
- ② 日頃から市民センターを利用している中学生が館内のディスプレイを製作できるように協力。市民センターを明るく、居心地の良い空間にするために奮闘する中学生を見守る。
- ③ 子どもたちが大人を参加者として迎えるイベント「ダンボール縁日」を実施することに協力。子どもたちは大人が子どもの頃に帰ったように楽しめる射的や輪投げなどの縁日を企画してブースを手作りし、家族や地域住民が楽しんで遊べるように運営をおこなった。

成果・効果

子どもたちはわいわい市民センターの利用や子ども向けの講座の参加をきっかけとして日常的に市民センターを訪れることで、講座やイベントでのお手伝いに関わるようになっていった。そして関わりの中で次第に自分に何ができるかということを経験して動くようになった。そうした経験を積み重ねていったことで子どもたちは達成感を覚え、自主性や自己肯定感を育てることにつながったと思われる。また、大人は子どもたちが積極的に関わっていく姿を見て、見守ったり支援をするようになった。子どもたちは大人が自分たちを見守ってくれる存在であるということを感じて、安心して企画や運営に臨むことができ、大人との交流も増えていった。結果として子どもたちが地域活動の担い手であるという意識が育っていることが大きな成果となっている。

今後の取組

これまで子どもたちが関わってきたことを継続していけるように、子どもたちがおこなうことを大人たちは見守っていき、必要なときにはまちづくり協議会や社会福祉協議会などの地域団体が支援できる体制を整えていくことが望まれる。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

子どもたちが日頃から市民センターで過ごせる居場所づくりは、子どもたちが地域活動に関わりやすくなるための重要なポイントであると思われる。また、子どもたちの自主的な活動を見守っていくことを理解し、協力してくれる地域の大人たちは、子どもたちが地域の担い手として活躍していくために欠かせない存在である。

活動の様子

役割を見つけて動く小学生



わいわい市民センターを利用する中学生と関わる大人たち



館内ディスプレイの製作を行う中学生



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

定期的にセンターを訪問して館長や職員から話を聞き、必要な際は助言をおこなった。

作成者

若松区役所コミュニティ支援課 地域・人づくり担当補佐 濱口 奈菜

市民センターにおける生涯学習事業

区	若松区	センター名	二島市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

二島校区多文化共生のまちづくり

背景、地域課題、住民ニーズなど

2022年3月にイスラム文化交流センター（K I C C）が開設され、外国の方が地域に増えた。共に理解を深める必要があるが、コミュニケーション方法がわからないとの声もある。現地の言葉、英語、日本語を交えながら、お互いの文化や慣習の違いなどに注意しながら、今後、友好な関係を継続し更に広げていくようにする必要がある。

取組内容

地域の防犯部長の提案で、地域の防犯パトロールに参加してもらうことから始め、多文化共生社会の実現を目指し以下の講座を開催。

- ・グローバル教室 … 日本文化の紹介（茶道・書道・折り紙）
 - ・インドネシア向け防災講座 … 2011年3月11日発生の東日本大震災の事例で説明
 - ・市民センター概要の説明 … インドネシアの大学教授に市民センターの役割説明
 - ・文化祭での交流 … インドネシア文化の紹介
- お互いの文化を理解し合う機会とした。

成果・効果

- ・地域の方が多文化に触れる機会が増え、文化や人種について学び、北九州で暮らす多様な方への理解が深まった。
- ・いろんな国の方が市民センターに来ることで、日本の文化を伝えることができた。
- ・近隣に住む多国籍の方と顔見知りになり、困り事を相談しやすい関係になった。

今後の取組

二島校区で留まらず、北九州市全域に出向き講座を開催し交流の機会を増やしていけるよう、橋渡しをしていく。

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

講座に参加し文化の違いを一緒に学んだ。その後、市民センター職員さんや館長と地域にあるイスラム文化交流センターでラマダン明けの集まりに参加し、交流を深めた。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

近隣地域や他区の方たちの理解を深めるのも必要である。その為には知ってもらうことが大切になる。民族楽器や食べ物などを取り掛かりやすいことを手始めに、交流の場を増やしていく必要がある。

活動の様子

インドネシアの楽器
アンクルンを
みんなで演奏



地域の方が講師になり、おりがみ、
習字、茶道を体験



市民センターの館長から、市民セ
ンターの役割や避難所について、
お話をききました。



作成者

若松区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 星原智美